

2022年3月期

株式会社エイジス

決算説明会

2022年5月16日（月）



Your Partner in Retail Solutions

agenda

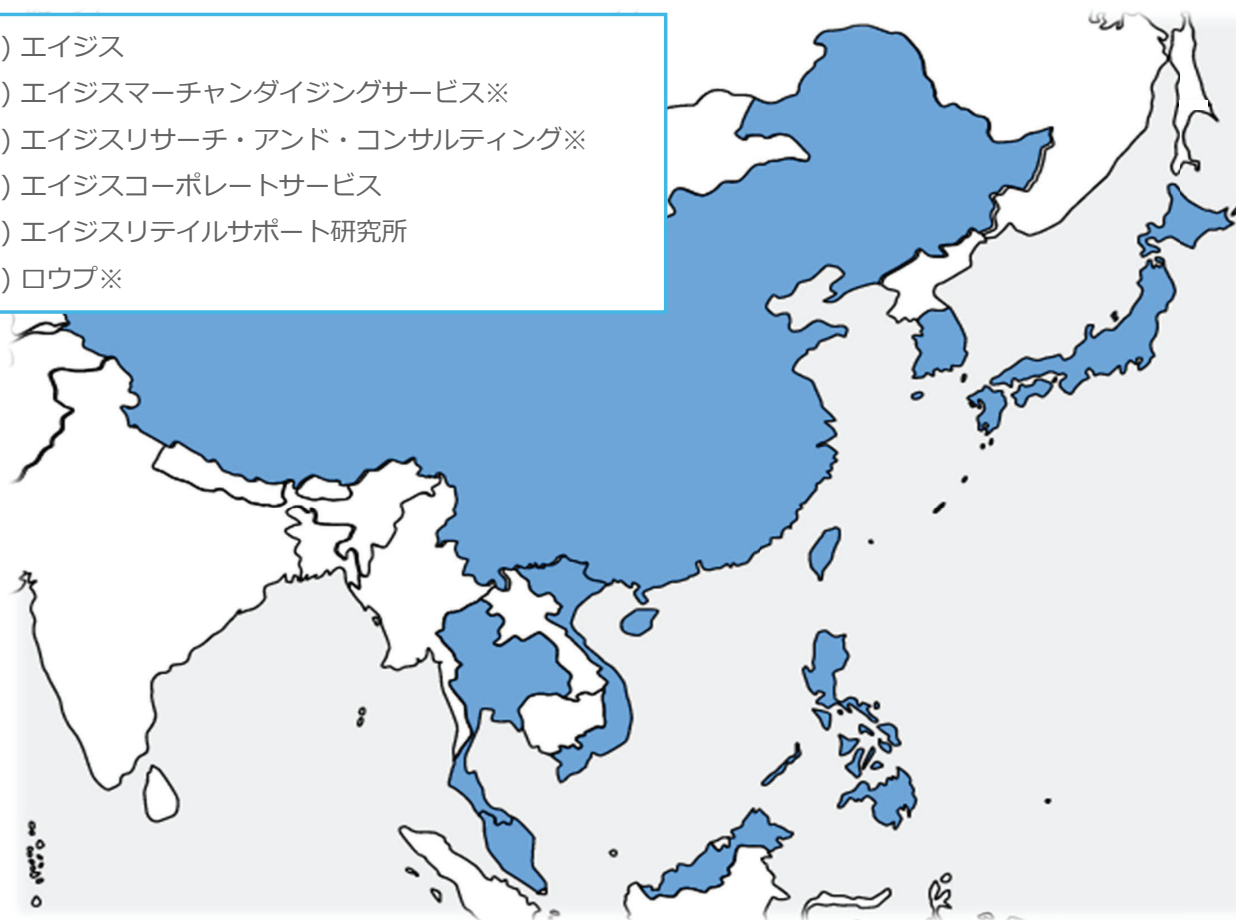
- 1** グループ概要
- 2** 2022年3月期 業績報告・総括
- 3** 2022年3月期 重点取り組み結果
- 4** 2023年3月期 長期目標に向けた重点施策・業績見通し
- 5** 株主還元

agenda

- 1** グループ概要
- 2** 2022年3月期 業績報告・総括
- 3** 2022年3月期 重点取り組み結果
- 4** 2023年3月期 長期目標に向けた重点施策・業績見通し
- 5** 株主還元

● 『アジアのリテイルサービスグループ』としてアジア各国で事業展開

- (1978) エイジス
- (2001) エイジスマーチャンダイジングサービス※
- (2007) エイジスリサーチ・アンド・コンサルティング※
- (2010) エイジスコーポレートサービス
- (2016) エイジスリテイルサポート研究所
- (2017) ロウプ※



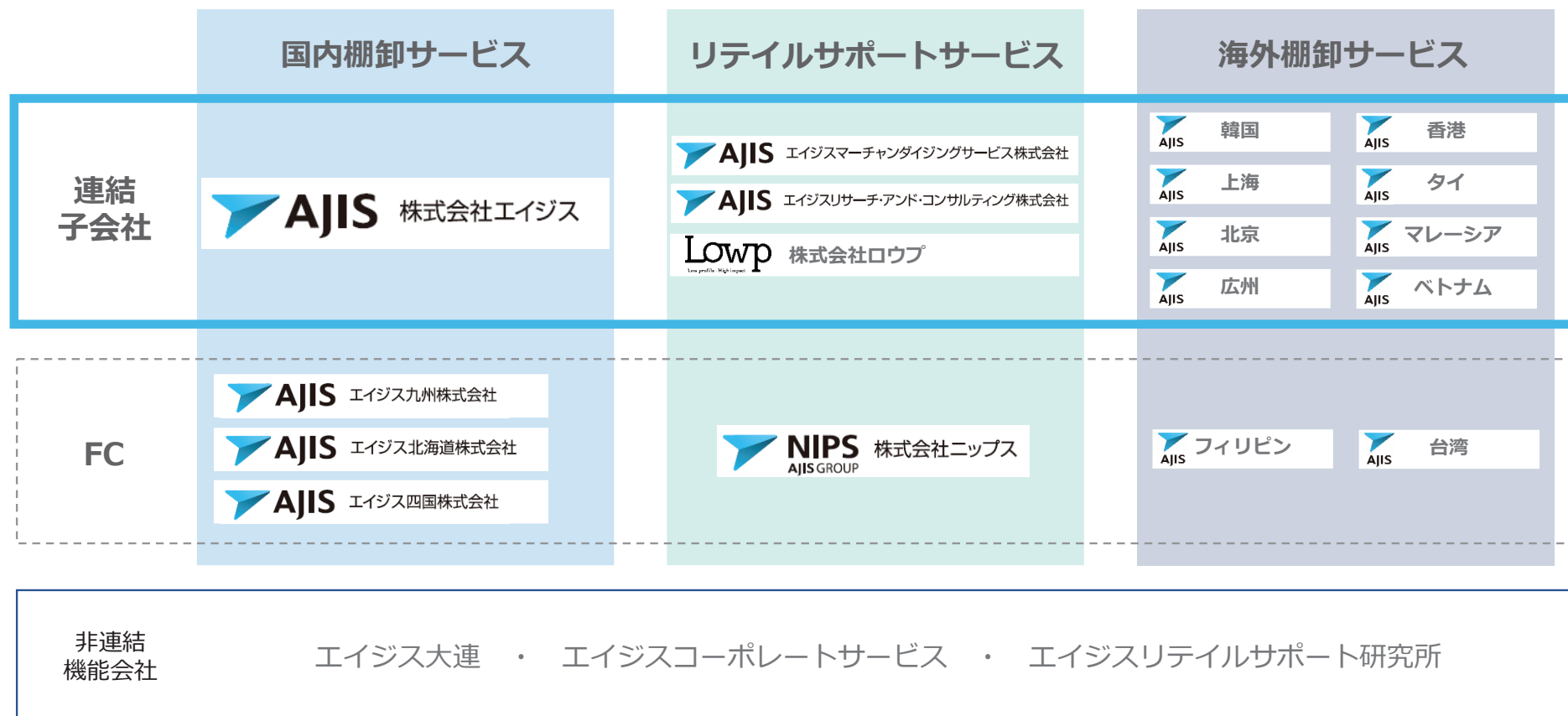
()内は設立年
※は連結子会社

<2022年3月末現在>

- (1982)エイジス九州
- (1984)エイジス北海道
- (1992)エイジス四国
- (1995)ニップス

- (2003)韓国※
- (2004)大連
- (2009)上海※
- (2009)台湾
- (2009)マレーシア※
- (2011)北京※
- (2011)広州※
- (2011)香港※
- (2011)タイ※
- (2016)フィリピン
- (2016)ベトナム※

●国内外22社で構成し、アジア各国のチェーンストアにリテイルサービスを提供

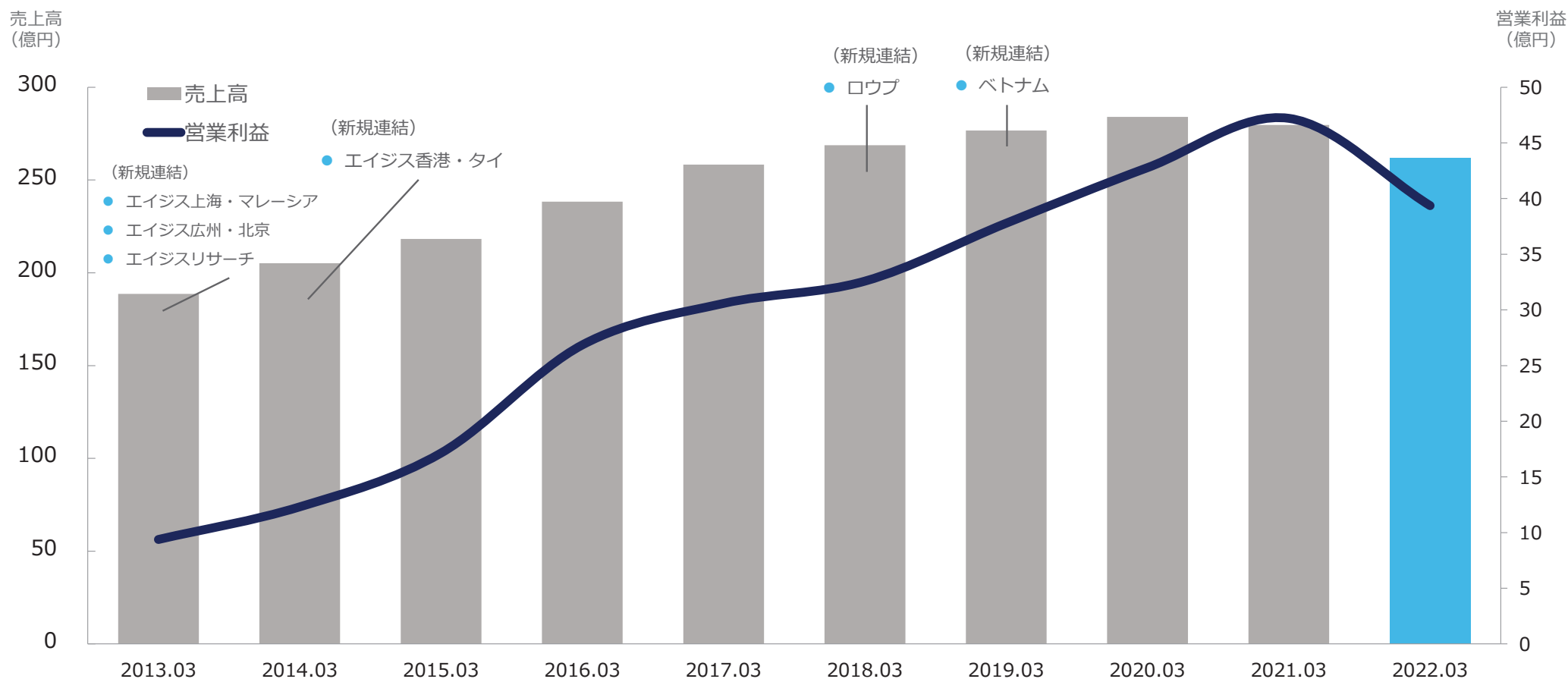


agenda

- 1** グループ概要
- 2** 2022年3月期 業績報告・総括
- 3** 2022年3月期 重点取り組み結果
- 4** 2023年3月期 長期目標に向けた重点施策・業績見通し
- 5** 株主還元

連結業績

● 2期連続の減収、9期ぶりの減益となった



連結業績は減収減益

売上高 26,177百万円 | 前期比 93.6% | 当初計画比 95.9% (修正計画比 100.1%)

営業利益 3,936百万円 | 前期比 83.4% | 当初計画比 98.4% (修正計画比 100.4%)

2022年3月17日特別損失及び業績修正をリリース

① 特別損失計上

- 次世代棚卸業務システム開発中止に伴う「システム開発に係るソフトウェア仮勘定」の除却損等約463百万円
- 新型コロナウイルス感染症に伴う業績悪化に伴う海外事業に関する関係会社株式評価損約121百万円

② 業績修正

- 特別損失計上及び業績悪化に伴い連結業績を修正

- 前期比では売上高減少に対し販売管理費は増加したことにより減益となった
- 特別損失計上が主な要因となり当期純利益は減少した

単位：百万円

	2020.03期 実績	2021.03期 実績	2022.03期 実績	前期比	増減額	2022.03期 当初計画	計画比	増減額	2022.03期 修正計画
売上高	28,402	27,966	26,177	93.6%	△1,788	27,300	95.9%	△1,122	26,150
売上総利益	8,787	9,199	8,519	92.6%	△679	9,377	90.9%	△857	8,500
対売上比	30.9%	32.9%	32.5%	—	△0.3%	34.3%	—	△1.8%	32.5%
販売管理費	4,510	4,478	4,583	102.4%	+105	5,377	85.2%	△793	4,580
対売上比	15.9%	16.0%	17.5%	—	+1.5%	19.7%	—	△2.2%	17.5%
営業利益	4,277	4,720	3,936	83.4%	△784	4,000	98.4%	△63	3,920
対売上比	15.1%	16.9%	15.0%	—	△1.8%	14.7%	—	+0.4%	15.0%
経常利益	4,343	4,862	4,043	83.1%	△819	4,060	99.6%	△16	4,020
対売上比	15.3%	17.4%	15.4%	—	△1.9%	14.9%	—	+0.6%	15.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,011	3,187	2,250	70.6%	△937	2,740	82.1%	△489	2,240
対売上比	10.6%	11.4%	8.6%	—	△2.8%	10.0%	—	△1.4%	8.6%

※修正計画数値は2022年3月17日に公表しました通期業績予想の修正値を記載しております。

- 前期比では売上高はリテイルサポートサービスの減少、営業利益は国内棚卸サービスの減少が影響した
- 海外棚卸サービスの売上高は回復基調となった

単位：百万円

売上高	2020.03期 実績	2021.03期 実績	2022.03期 実績	前期比	増減額	2022.03期 当初計画	計画比	増減額	2022.03期 修正計画
セグメント合計	28,402	27,966	26,177	93.6%	△1,788	27,300	95.9%	△1,122	26,150
国内棚卸サービス	17,303	16,765	16,387	97.7%	△378	17,100	95.8%	△712	16,400
リテイルサポートサービス	8,719	9,580	7,828	81.7%	△1,751	8,000	97.9%	△171	7,781
海外棚卸サービス	2,574	1,769	2,082	117.7%	+313	2,300	90.5%	△217	2,082
消去	△195	△149	△120	—	+28	△100	—	△20	△113

営業利益	2020.03期 実績	2021.03期 実績	2022.03期 実績	前期比	増減額	2022.03期 当初計画	計画比	増減額	2022.03期 当初計画
セグメント合計	4,277	4,720	3,936	83.4%	△784	4,000	98.4%	△63	3,920
国内棚卸サービス	3,594	3,719	3,107	83.6%	△611	3,300	94.2%	△192	3,090
リテイルサポートサービス	530	1,089	984	90.4%	△104	600	164.1%	+384	986
海外棚卸サービス	133	△109	△175	—	△65	100	—	△275	△177
消去	19	21	18	—	△2	0	—	+18	22

国内棚卸サービス

減収減益、当初計画は未達成であった

- 売上高 16,387百万円 | 前期比 97.7% | 当初計画比 95.8% (修正計画比 99.9%)
- 営業利益 3,107百万円 | 前期比 83.6% | 当初計画比 94.2% (修正計画比100.6%)

売上高の主な増減要因

- 新規案件の獲得、前期の緊急事態宣言発出に伴う棚卸サービス中止の受注回復
- 既存顧客の店舗における在庫数量の減少
- 一部顧客における発注店舗数の減少

営業利益の主な増減要因

- サービス品質向上施策の実行、採用コストの増加に伴う人件費の増加
- システム開発経費など販売管理費の増加

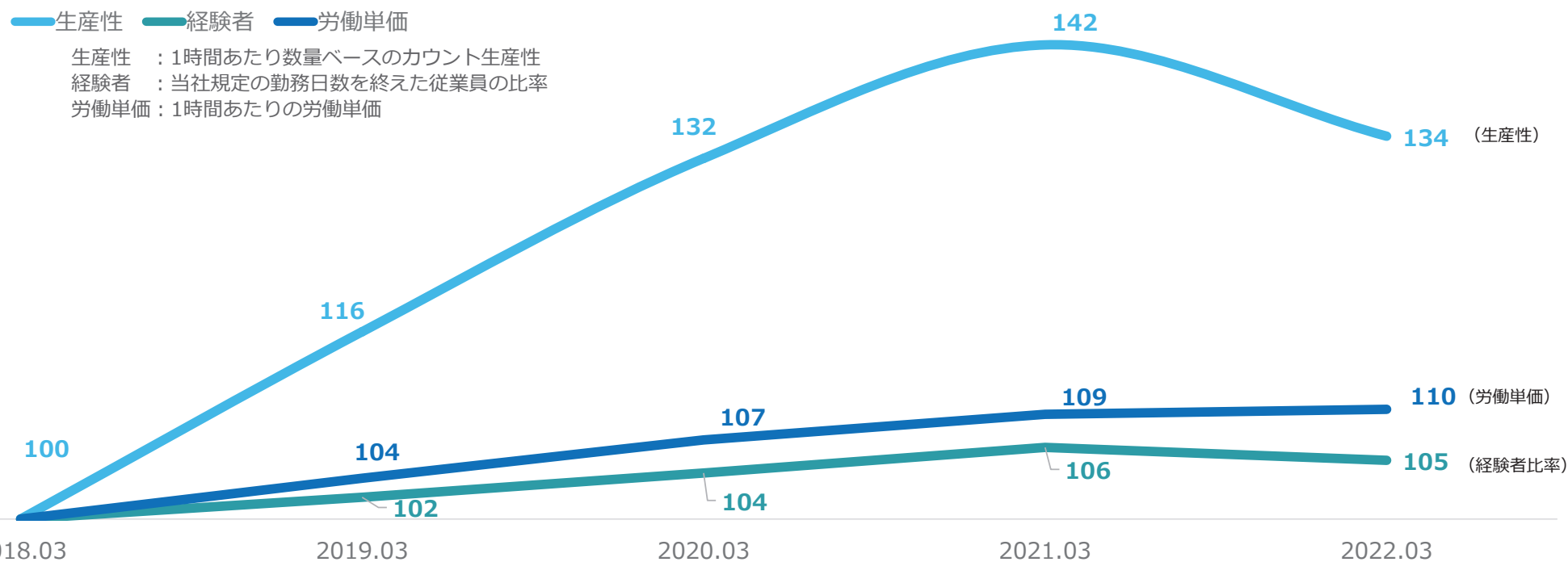
- サービス品質向上を図るため投入人員数の見直し、チェック方法及び監査機能の強化、繁忙期の人員確保対策を実行し売上総利益が減少
- 次世代棚卸業務システム開発費用や繁忙期の人員不足対策などで販売管理費は増加

単位：百万円

	2020.03期 実績	2021.03期 実績	2022.03期 実績	前期比	増減額
売上高	17,303	16,765	16,387	97.7%	△378
売上総利益	6,705	6,892	6,337	91.9%	△555
対売上比	38.8%	41.1%	38.7%	—	△2.4%
販売管理費	3,111	3,173	3,230	101.8%	+56
対売上比	18.0%	18.9%	19.7%	—	+0.8%
営業利益	3,594	3,719	3,107	83.6%	△611
対売上比	20.8%	22.2%	19.0%	—	△3.2%

- サービス品質向上施策に注力したことにより作業量が増加
- 新型コロナウイルスの影響に伴う留学生の減少により想定以上の人員不足が発生し、新規採用者や本部応援の増加により、生産性が前期比5.7%低下

2018.03期の数値を100とした場合の推移



リテイルサポートサービス

【対象会社】エイジスマーチャンダイジングサービス（AMS）、エイジスリサーチ・アンド・コンサルティング（ARC）、ロウプ

■ 減収減益となったが、営業利益は当初計画を達成した

- 売上高 7,828百万円 | 前期比 81.7% | 当初計画比 97.9% (修正計画比 100.6%)
- 営業利益 984百万円 | 前期比 90.4% | 当初計画比 164.1% (修正計画比 99.9%)

■ 売上高の主な増減要因

- AMS 商品補充業務・店舗改装業務の内製化に伴う受注店舗数の減少により減収となった
- ARC 官公庁からの調査を受注し過去最高売上高を達成した
- ロウプ 前期は新規開発案件獲得により大きな売上に繋がるも、今期は開発案件が減少したことにより減収となった

■ 営業利益の主な増減要因

- AMS 生産性向上施策や販売管理費のコントロールにより減益となるも計画は達成
- ARC 大幅な受注量の増加に対し限られたリソースで対応、過去最高益を達成
- ロウプ 売上高減少の影響及び外部リソースの活用が増えたことにより減益となった

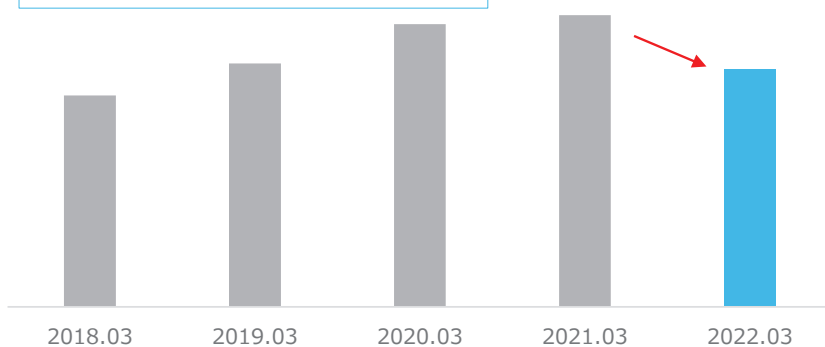
- 生産性向上取り組みやバックオフィス業務の効率化に取り組み、売上総利益率及び営業利益率は上昇した

単位：百万円

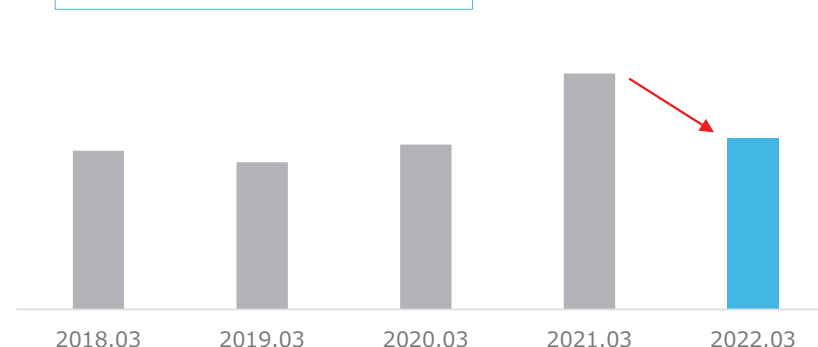
	2020.03期 実績	2021.03期 実績	2022.03期 実績	前期比	増減額
売上高	8,719	9,580	7,828	81.7%	△1,751
売上総利益	1,485	2,086	1,973	94.6%	△113
対売上比	17.0%	21.8%	25.2%	—	+3.4%
販売管理費	955	997	988	99.1%	△8
対売上比	11.0%	10.4%	12.6%	—	+2.2%
営業利益	530	1,089	984	90.4%	△104
対売上比	6.1%	11.4%	12.6%	—	+1.2%

- 新型コロナウイルスの影響や内製化により売上が減少する中で、リサーチサービスでは官公庁より飲食店営業状況調査を受注し、売上が拡大した

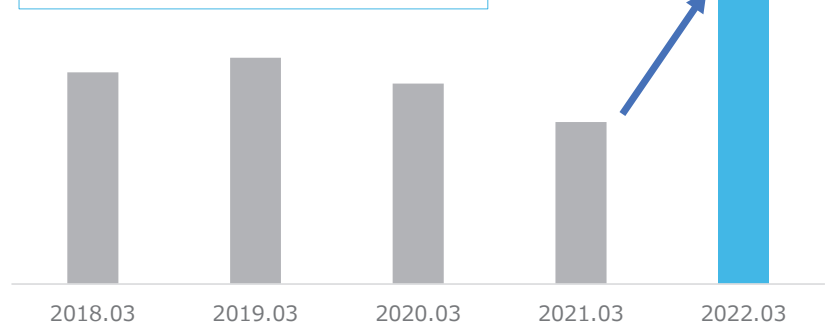
集中補充サービス



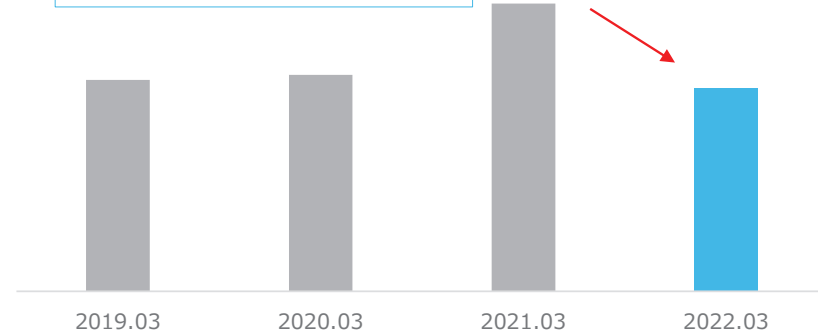
店舗改装サービス



リサーチサービス



広告・企画サービス



海外棚卸サービス

【対象会社】 韓国、上海、北京、広州、香港、マレーシア、タイ、ベトナム

■ 増収となったが営業損失は拡大した

- 売上高 2,082百万円 | 前期比117.7% | 当初計画比 90.5% (修正計画比 100.0%)
- 営業利益 △175百万円 | 前期差△65百万円 | 当初計画差△275百万円 (修正計画差+1百万円)

■ 売上高の主な増減要因

- 中国においては大口顧客からの受注が増加するなど、売上高は回復基調であった
- アセアン地域は都市封鎖や行動制限により事業停止や受注減少が発生するなど新型コロナウイルスの影響を大きく受けた

■ 営業利益の主な増減要因

- 中国は受注回復に伴い赤字幅を縮小したが、韓国は売上高減少に伴い営業損失が拡大した
- アセアン地域は売上高減少が影響し、営業損失が拡大した

- アセアン地域及び韓国での売上減少、中国での大口顧客の受注増加に対応するためのクルー育成費用の増加により、営業損失は拡大となった

単位：百万円

	2020.03期 実績	2021.03期 実績	2022.03期 実績	前期比	増減額
売上高	2,574	1,769	2,082	117.7%	+313
売上総利益	695	349	296	84.8%	△53
対売上比	27.0%	19.7%	14.2%	—	△5.5%
販売管理費	562	458	471	102.8%	+12
対売上比	21.8%	25.9%	22.6%	—	△3.3%
営業利益	133	△109	△ 175	—	△65
対売上比	5.2%	—	—	—	—

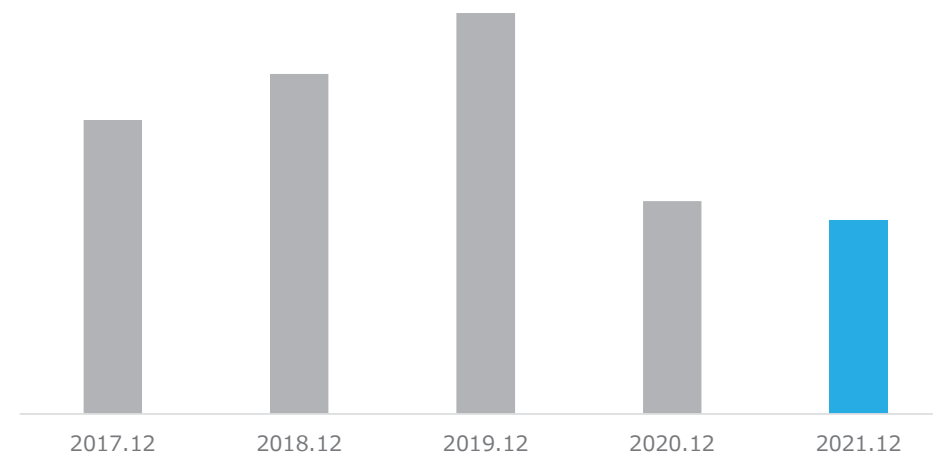
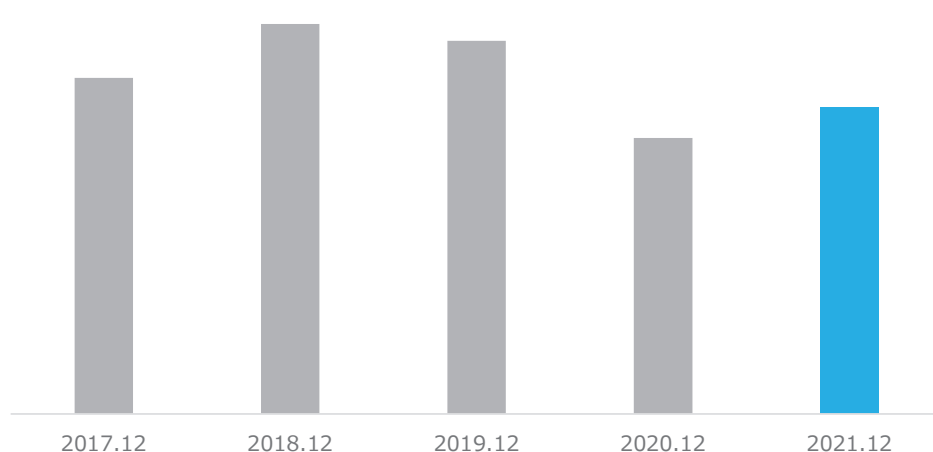
- 東アジア地域では売上高は回復基調で推移するも、韓国は大口顧客の失注及び既存顧客の店舗減により売上高減少した
- アセアン地域では都市封鎖や断続的な移動制限など、事業活動に制約を受けたことが影響した

東アジア

韓国、上海、北京、広州、香港

アセアン

マレーシア、タイ、ベトナム



※2017.12期を100とした指数

agenda




- 1** グループ概要
- 2** 2022年3月期 業績報告・総括
- 3** 2022年3月期 重点取り組み総括
- 4** 2023年3月期 長期目標と重点施策・業績見通し
- 5** 株主還元

2022.03期 重点取り組み総括

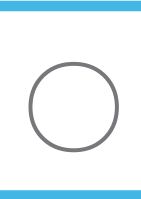

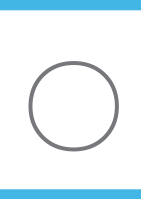
2022.03期 重点取り組み

- 1 顧客にとって価値の高いリテイルサポートサービスを確立する
- 2 創造性と挑戦力を生み出す組織文化の醸成
- 3 成長事業の創出に向けた投資を積極的に実行する

1 顧客にとって価値の高いリテイルサポートサービスを確立する

重点項目	結果	評価
<p>技術と仕組みにより 高品質の棚卸サービスを 提供する</p>	<p>サービス品質向上を果たす専門部署を設置し、 棚卸品質向上に絞った施策を実行</p>	
<p>MDSをリテイルサポート サービスの柱となる サービスへ成長させる</p>	<p>MDS売上高 前年比26.3%減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内プロジェクトによる施策の実行 	
<p>補充サービスを再構築し 高付加価値サービスへ 進化させる</p>	<p>集中補充売上高 前年比18.4%減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務代行AIロボットRasforを使った新サービス開発 社内プロジェクトによる施策の実行 	

2 創造性と挑戦力を生み出す組織文化の醸成

重点項目	結果	評価
<p>社員が自由な意見を 発信できる職場環境を 実現する</p>	<p>社員意識調査結果 職場の心理的安全性 7.4%向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内プロジェクトによる施策の実行 	
<p>社員の能力や長所が 発揮できる職場環境を 実現する</p>	<p>社員意識調査結果 職場の働きがい 2.4%減少 自己成長・自己実現 4.6%向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内プロジェクトによる施策の実行 	
<p>組織機能の見直しと 一元化により専門性の 高い組織を構築する</p>	<p>管理部門一元化取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023.03期より地域拠点、関係会社の管理機能を統合 	

3 成長事業の創出に向けた投資を積極的に実行する

重点項目	結果	評価
<p>サービス開発や新規事業を戦略的に実行する</p>	<p>新規事業提案件数4件⇒10件 ファーストペンギンクラブへの参加者55名</p>	
<p>デジタルトランスフォーメーションの取り組みを推進する</p>	<p>ペーパーレス化取り組み効果 11.2%削減 ● 自社保有データ活用は継続的に研究 ※使用枚数ベース</p>	
<p>教育投資により社員のスキル向上を支援する</p>	<p>キャリア支援制度利用者208名</p>	

agenda

- 1** グループ概要
- 2** 2022年3月期 業績報告・総括
- 3** 2022年3月期 重点取り組み結果
- 4** 2023年3月期 長期目標に向けた重点施策・業績見通し
- 5** 株主還元

2023年3月期 業績見通し

● 中長期的な成長を実現するための投資により、連結業績は減益を計画

単位：百万円

	2021.03期 実績	2022.03期 実績	2023.03期 計画	前期比	増減額
売上高	27,966	26,177	27,000	103.1%	+822
売上総利益	9,199	8,519	8,546	100.3%	+26
対売上比	32.9%	32.5%	31.7%	—	△0.9%
販売管理費	4,478	4,583	5,046	110.1%	+462
対売上比	16.0%	17.5%	18.7%	—	+1.2%
営業利益	4,720	3,936	3,500	88.9%	△436
対売上比	16.9%	15.0%	13.0%	—	△2.1%
経常利益	4,862	4,043	3,581	88.6%	△462
対売上比	17.4%	15.4%	13.3%	—	△2.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,187	2,250	2,370	105.3%	+119
対売上比	11.4%	8.6%	8.8%	—	+0.2%

売上高	2021.03期 実績	2022.03期 実績	2023.03期 計画	前期比	増減額
セグメント合計	27,966	26,177	27,000	103.1%	+822
国内棚卸サービス	16,765	16,387	16,300	99.5%	△87
リテイルサポートサービス	9,580	7,828	8,300	106.0%	+471
海外棚卸サービス	1,769	2,082	2,500	120.1%	+417
消去	△149	△120	△100	—	+20

- 国内棚卸サービス
 - 新規顧客獲得や既存顧客への増店提案に注力し、売上減少要因をカバーする
- リテイルサポートサービス
 - 売上上位の既存顧客50社に対し棚卸以外のサービスを提供するための取り組みに注力する
- 海外棚卸サービス
 - マーケティングや現地化の推進に注力し、シェア拡大や新規顧客の獲得を実現する

営業利益	2021.03期 実績	2022.03期 実績	2023.03期 計画	前期比	増減額
セグメント合計	4,720	3,936	3,500	88.9%	△436
国内棚卸サービス	3,719	3,107	2,700	86.9%	△407
リテイルサポートサービス	1,089	984	790	80.2%	△194
海外棚卸サービス	△109	△175	10	—	+185
消去	21	18	—	—	△18

- 国内棚卸サービス
 - 中長期的な成長を実現するために人への投資を実行する
- リテイルサポートサービス
 - MDSと補充サービスの付加価値を高めるための研究開発、中長期的な成長を実現するために人への投資を実行する
- 海外棚卸サービス
 - 棚卸売上の回復とサービス品質向上施策により黒字化を実現する

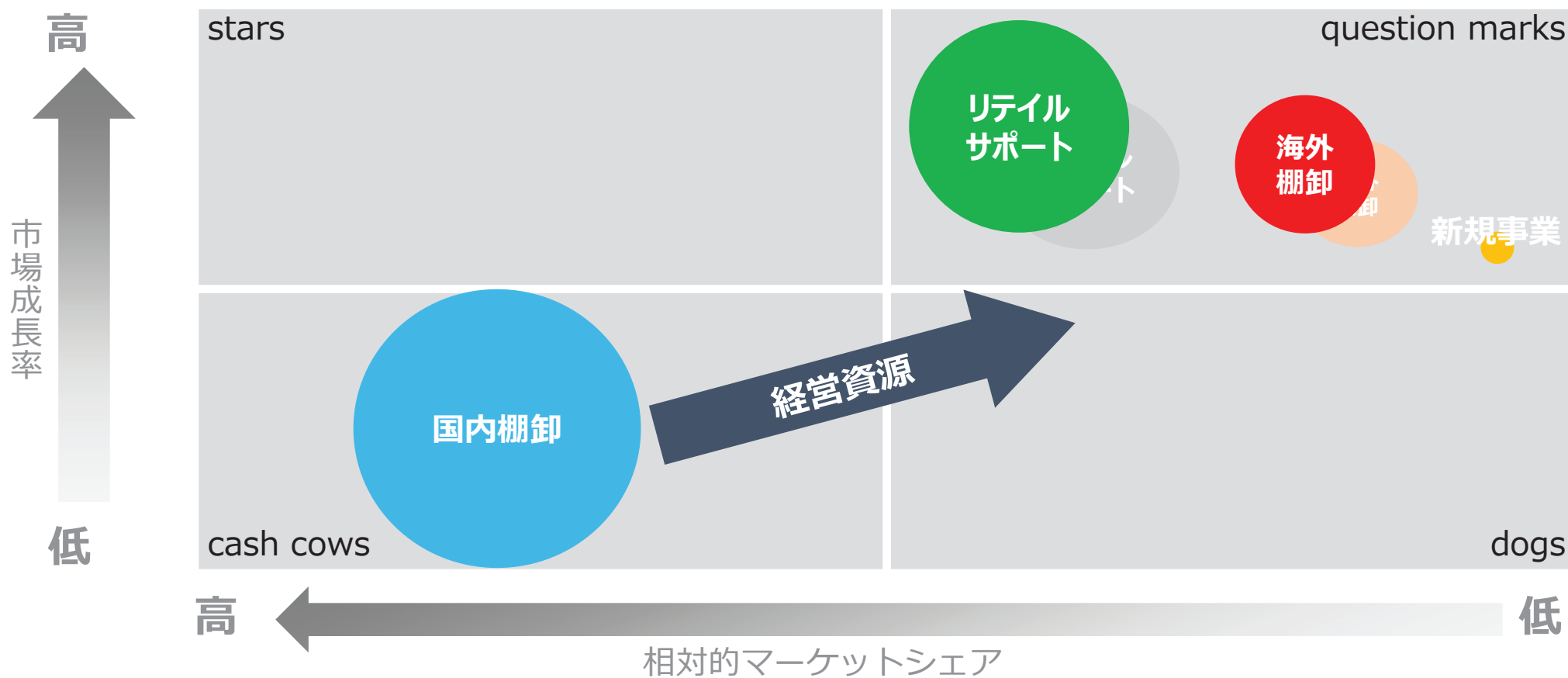
2030年に向けた エイジスグループの取り組み

2030年 世界に展開する
リテイルサービス企業へ

チェーンストア産業を変革する
新たな価値を創造する



- 国内棚卸サービスで収益を確保し、成長セグメントへの投資を加速する



方針1

棚卸会社からリテイルサービス会社への事業転換

方針2

グループの柱となる新たな事業の創出

方針3

展開地域をアジアから世界へ拡大

中期取り組み

2023.03期取り組み



MDSを強化しリテイルサービスの柱へと成長させる



マーチャンドライジングサービス構築に向けた取り組み推進

- 店舗改装、新店セットアップ売上高130%を実現
- メーカー、ベンダー向け業務を強化



品質強化によりエイジスブランドを確立し、顧客との強固な信頼関係を構築する



圧倒的な品質の実現と提案力の強化

- 競合や自社棚卸を圧倒する品質を実現することで売上の最大化と新規サービス導入を実現
- 営業とオペレーションの一体化により提案力や対応頻度を高め、競合参入を防止
- 顧客へのオペレーション提案と従業員教育により品質と作業効率向上を実現



2030年度に複数サービス提供企業70%を実現する



グループ主要サービスの周知と複数サービスの提供

- エイジスの既存顧客売上上位50社に棚卸以外のサービスを提供
- マーケティングを強化し、グループ主要サービスの価値を周知し、認知度を高める
主要サービス：棚卸（海外）、MDS、補充、リサーチ、セールスプロモーション

方針2 グループの柱となる新たな事業を創出する



中期取り組み

2023.03期取り組み

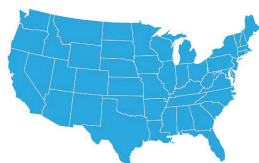


創造性と挑戦力を生み出す
組織文化を築き上げる



職場環境の改善と社員教育

- 心理的安全性の高い職場環境の構築に向けた取り組みを推進する
- 多様な属性や価値観に対応した人事制度の構築に向けた取り組みを推進する
- 教育投資や教育機会を提供し、社員のスキル向上を支援する



米国リテイルサービスを研究し、
日本・アジアへ新サービスを導入する



新サービス発見を目的とした米国リテイルサービスの調査・研究

- カリフォルニアオフィスを活用し、米国リテイルサービス企業の調査を進める
- BDS Solutions Groupと連携し、流通関連サービスの調査・研究を進める
※ BDS Solutions Group = bds connected solutions + apollo



成長事業の創出に向けた投資を
積極的に実行する



新規事業開発の取り組み強化

- 新サービス開発や新規事業開発に挑戦できる機会を全社員に提供
- 新規事業検討会の運用を本稼働させ、年間3本の新規事業に挑戦
- BreakFIX、ラウンドメンテナンスの拡大に向けた投資（システム・ツール等）を実施
- アプリ開発やデータ活用の取り組みを推進し、社内外の業務改革を実現

方針3 展開地域をアジアから世界に拡大する



中期取り組み

2023.03期取り組み



日本流に拘らず、進出国の実状に即したオペレーションやマネジメントを構築する

現地化の推進によりシェアを拡大する

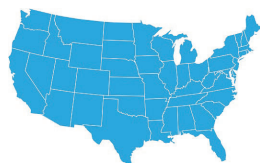
- 現地に即したオペレーションとマネジメントにより海外におけるエイジスブランドを築き上げ、シェア拡大を進める
- 現地化推進モデルとなる拠点を設定し、現地化に向けた取り組みを推進する



マーケティングを強化し、エイジスの認知度とブランド力を高める

WEBマーケティングを強化しブランド力を高める

- WEBマーケティングにより進出国での棚卸及びエイジスの認知度を高める
- マーケティングにより海外顧客固有のニーズを探り、高付加価値なサービスを開発する



展開地域を拡大する

展開地域の拡大を目指した準備を進める

- アジアの未進出国・地域を対象に、市場調査や競合調査を進める
- カリフォルニアオフィスを活用し、米国市場調査や競合調査を進める

人的資本の最大化に向けた取り組み

個人力と組織力の双方に取り組むことで人的資本を最大化させ、エイジスグループの成長を実現する

チェーンストア産業を変革する新たな価値を創造する

個人力

社員の成長・
教育機会の充実



組織力

心理的安全性の高い
職場環境

社員の自己実現を支援する

◆ First Penguins Club

自己実現を応援する

コミュニティ活動

- 新しいことに挑戦したい
- 何かやりたいけど何をやっていいのかがわからない
- 人とのつながりによりやりたいことを見つけたい
- 誰かの役に立ちたい

部署や勤務地、役職など異なる社員が

「やりたいことを実現する」

という共通の想いをもって活動しています



第1期参加人数55名（14.8%）

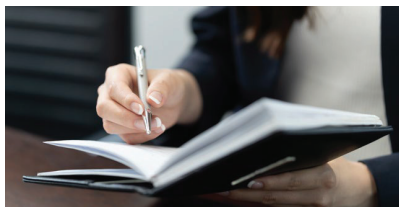
16チームが目標実現に向け活動中

- 新規事業提案 4チーム
 - ・ 農業
 - ・ 施設特化型調剤薬局
 - ・ フードロス
 - ・ カレー事業
- 新規サービス 3チーム
 - ・ 循環棚卸システム
 - ・ 買い物弱者視点コンサル
 - ・ 新規ITサービス発案
- 自己啓発・スキルアップ 3チーム
 - ・ 英語力向上
 - ・ HP制作スキル習得
 - ・ ITスキル習得
- 社内改善 6チーム
 - ・ 資格支援制度活用
 - ・ 留学生向け支援
 - ・ 社員に愛される会社づくり
 - ・ 社外PR
 - ・ コミュニケ企画
 - ・ 好きと得意を活かす職場づくり



社員のスキル向上を目的とした教育支援を充実。対象範囲も拡大

◆キャリア支援制度



●対象範囲を拡大●
2022.03期 : (株)エイジス 正社員のみ
2023.03期~ : グループ各社/
嘱託社員含む全社員

会社が推奨する自己啓発メニューや社員自身のスキルアップのために希望するセミナー受講や資格取得を支援する制度
(費用の全額~半額を会社が補助)

<推奨メニュー>

- ①語学習得
- ②グローバル流通セミナー
- ③衛生管理者資格
- ④オンライン学習・eラーニング
- ⑤ロス対策士資格取得
- ⑥IT関連 (ITパスポート/選抜型研修)

利用実績 (前期比)

キャリア支援制度利用者数

44名⇒**165**名

◆階層別研修

●対象範囲を拡大●
2022.03期 : (株)エイジス
2023.03期~ : グループ各社

- 多様な研修を通し、様々な知識やスキルの習得を目指す

研修	内容
ダイバーシティ基礎研修	ダイバーシティの基礎知識について学ぶ研修
役員向け研修	心理的安全性をメインとした研修
キャリア研修	女性活躍にフォーカスし自分のキャリアについて考える研修
マネジメント向け研修	女性特有の特徴やコミュニケーションの仕方について学ぶ
コミュニケーション研修	人との関わり方やコミュニケーションの取り方について学ぶ
ファシリテーション研修	会議中のファシリテーションのスキルを習得する

心理的安全性の高い職場環境を実現する

あなたの職場は心理的安全性の担保されている環境だと思いますか？

8.2P UP!

従業員の属性に関係なく、業務上必要な情報や仕事の機会が公平に与えられていますか？

10.0P UP!

会社方針など経営層から適切に周知・共有されていると思いますか？

11.5P UP!

(2022.03期社員意識調査結果より抜粋)

◆ さん付け運動の開始

社長を含む全社員の呼び方を「さん付け」で統一。意見の言いやすい関係づくりを目指す

◆ 全社員ミーティングの開催

全社員へ定期的に情報を提供し、情報の格差を是正する

◆ 1on1ミーティングの導入

上司と部下の相互理解・信頼関係を構築し、心理的安全性を醸成することで、多様な意見を促進する

◆ 会議の活性化

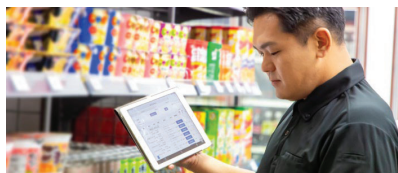
4つのルールと2つのマナーで会議を活性化させ、イノベーションの起きる組織風土を実現する

- ぬるい職場は社員の不安につながり、きつい職場は社員の不満につながる
- 社員がやりがいをもって成長できる「学習して成長する職場」環境を実現する

		仕事の要求水準	
		低い	高い
心理的安全性	高い	<p>コンフォートゾーン</p> <p>ぬるい職場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 快適で心地よい環境 ● 仕事の充実感はない 	<p>ランニングゾーン/ストレッチゾーン</p> <p>学習して成長する職場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健全な衝突と高いパフォーマンス ● 適度に負荷のかかる環境
	低い	<p>ボウリングゾーン</p> <p>さむい職場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 余計なことをせず、自分を守る ● 退屈でつまらない環境 	<p>パニックゾーン</p> <p>きつい職場</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不安と罰によるコントロール ● 不安で自己制御ができない環境

エイジスグループの サステナブルな取り組み

エイジスグループのサステナブルな取り組み



サービスを通じた 社会貢献

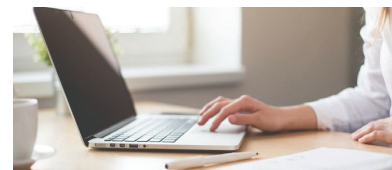
店舗棚卸サービスや商品補充サービス、賞味期限チェックサービスにより、正確な商品管理や適正在庫の維持を図り、商品ロスの削減に貢献しています。

また、冷ケース清掃などのメンテナンスサービスではエネルギー使用量の削減等にも貢献しています。



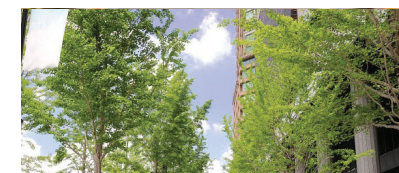
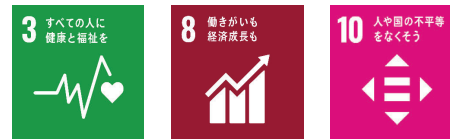
働きがいのある 職場づくり

エイジスグループで働く全ての従業員が誇りを持ち、自分らしくいきいきと働くことのできる会社の実現を目指し、心理的安全性の高い職場づくりや社員のやりがいの向上、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。



働きやすい 職場づくり

エイジスグループで働く全ての従業員が、自分のライフスタイルにあった働き方を実現できるよう、有給休暇や育児・介護休暇の取得推奨、フレックスタイム制度の導入やリモートワークの推進に取り組んでいます。



デジタル化の 取り組み

デジタル化の推進に積極的に取り組み、お客様への納品物を紙からデータにする仕組みを構築。社内業務においても、デジタル化を行うことで、紙の使用量を大幅に削減し、地球環境への貢献に取り組んでいます。



agenda

1

グループ概要

2

2022年3月期 第2四半期業績ハイライト

3

2022年3月期 重点取り組み進捗状況

4

2022年3月期 通期業績見通し・長期目標と重点施策

5

株主還元

安定的な配当を維持し、 配当性向30%を目標とします

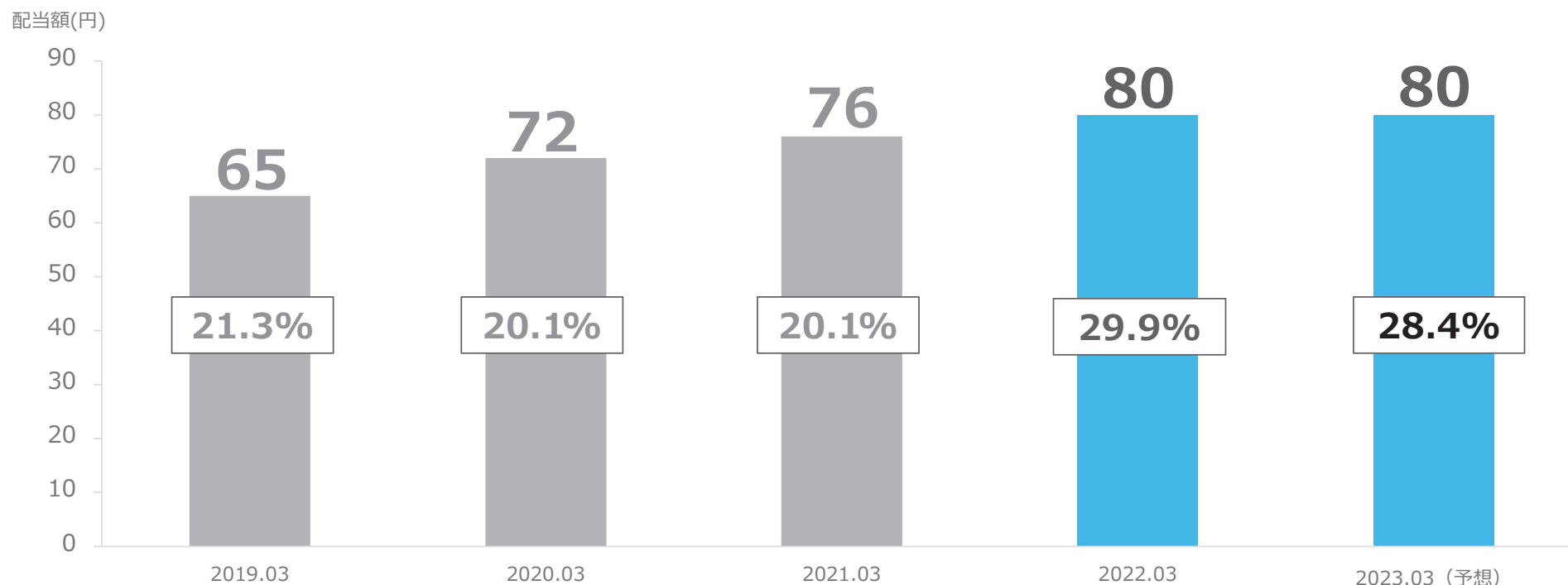
当社は、株主に対する利益還元を行うことを経営の最重要課題の一つと位置付けており、更なる経営基盤の強化および積極的な事業展開のための内部留保を図りつつ、配当性向等も勘案しながら安定的な配当の維持に努めることを基本方針としております。

株主還元



- 2022.03期 配当は1株あたり80円（普通配当）
- 2023.03期 配当予想は1株あたり80円（普通配当）

% = 配当性向



本資料における将来の予測に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断したものであり、実際には様々な要因によりこれらの予測とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

<<お問合せ先>>

執行役員経営企画室長 原田 光幸

TEL : 043-350-0911 / FAX:043-350-0800

E-mail : ajis_ir@ajis-group.com



FACT BOOK 2022年3月期 (連結業績)



AJIS

Your Partner in Retail Solutions

株式会社エイジス

TEL	043-350-0911
FAX	043-350-0800
E-mail	ajis_ir@ajis-group.com
HP	https://www.ajis.jp



STANDARD

証券コード：4659

〈本資料に関するお問い合わせ先：経営企画室長 原田 光幸〉

営業実績

業績

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
売上高(千円)	26,870,001	27,669,932	28,402,305	27,966,137	26,177,926
対前年伸長率(%)	104.0	103.0	102.6	98.5	93.6
国内棚卸サービス ※1					
棚卸受託収入(千円)	16,862,025	16,713,639	16,332,545	15,731,494	15,367,402
コンビニエンスストア(千円)	3,784,260	3,628,826	3,559,164	3,419,624	3,474,666
スーパーマーケット(千円)	2,439,334	2,437,846	2,454,178	2,226,420	2,207,281
ホームセンター・ドラッグストア(千円)	3,719,101	3,782,656	3,724,984	3,814,235	3,633,308
書店(千円)	705,534	663,446	628,600	526,505	552,187
GMS(千円)	2,460,022	2,497,666	2,488,575	2,414,163	2,232,916
専門店等(千円)	3,753,772	3,703,150	3,477,041	3,330,546	3,267,041
ロイヤリティ収入(千円)	181,158	185,429	192,359	183,449	173,306
その他(千円)	489,203	448,537	704,045	794,814	776,645
リテイルサポートサービス(千円) ※2	7,009,222	7,616,979	8,598,859	9,487,196	7,778,300
海外棚卸サービス(千円) ※3	2,328,391	2,705,394	2,574,495	1,769,183	2,082,270
売上総利益(千円)	7,475,193	8,401,843	8,787,637	9,199,238	8,519,786
売上総利益率(%)	27.8	30.4	30.9	32.9	32.5
営業利益(千円)	3,258,251	3,778,729	4,277,571	4,720,967	3,936,052
営業利益率(%)	12.1	13.7	15.1	16.9	15.0
経常利益(千円)	3,309,438	3,828,776	4,343,706	4,862,950	4,043,144
経常利益率(%)	12.3	13.8	15.3	17.4	15.4
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	2,237,787	2,634,850	3,011,401	3,187,513	2,250,285
親会社株主に帰属する当期純利益率(%)	8.3	9.5	10.6	11.4	8.6

※1 国内棚卸サービス

株式会社エイジス(当社)

※2 リテイルサポートサービス

エイジスマーチャンドライジングサービス株式会社、エイジスリサーチ・アンド・コンサルティング株式会社、株式会社ロウブ

※3 海外棚卸サービス

エイジスビジネスサポート株式会社、艾捷是(上海)商務服務有限公司、AJIS (MALAYSIA) SDN. BHD.、愛捷是(広州)商務服務有限公司
愛捷是(北京)商務服務有限公司、AJIS (HONG KONG) CO., LTD.、AJIS (THAILAND) CO., LTD.、AJIS (VIETNAM) CO., LTD.

収益および効率性

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
期末総資産（千円）	17,876,486	18,846,955	21,357,481	24,536,800	24,440,157
総資産回転率（回）	1.6	1.5	1.4	1.2	1.1
総資産当期純利益率(ROA)（%）	13.5	14.3	15.0	13.9	9.2
自己資本（千円）	13,425,933	14,212,784	16,651,606	19,268,799	20,891,491
純資産（千円）	13,600,858	14,428,444	16,909,221	19,631,623	21,099,958
自己資本利益率(ROE)（%）	18.0	19.1	19.5	17.7	11.2
株主資本配当率（DOE）（%）	3.9	4.1	3.9	3.6	3.2
期末従業員数（人）	718	780	814	845	805
期末嘱託社員数(※1)（人）	5,735	5,367	5,319	5,051	4,331
期末従業員1人当たり売上高（千円）	37,423	35,474	34,892	33,096	32,519
期末従業員1人当たり当期純利益（千円）	3,117	3,378	3,700	3,772	2,795

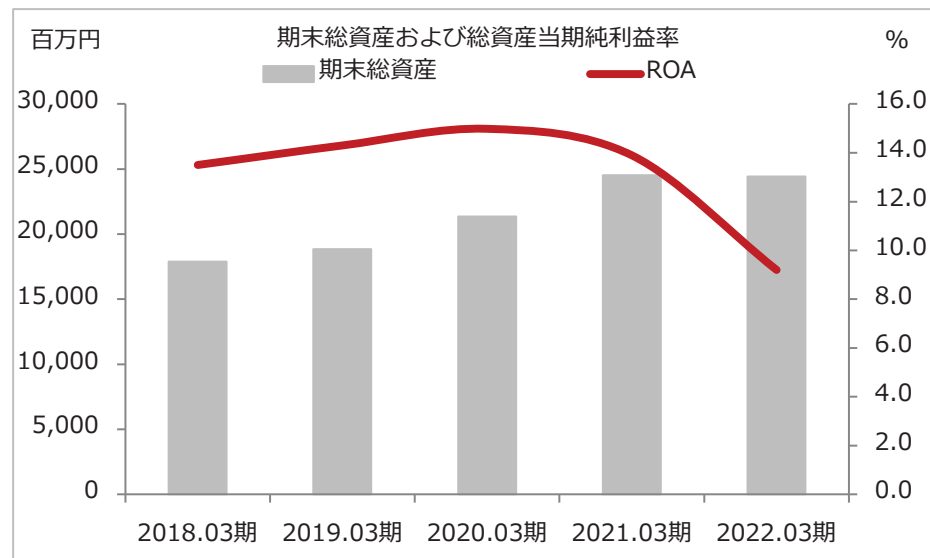
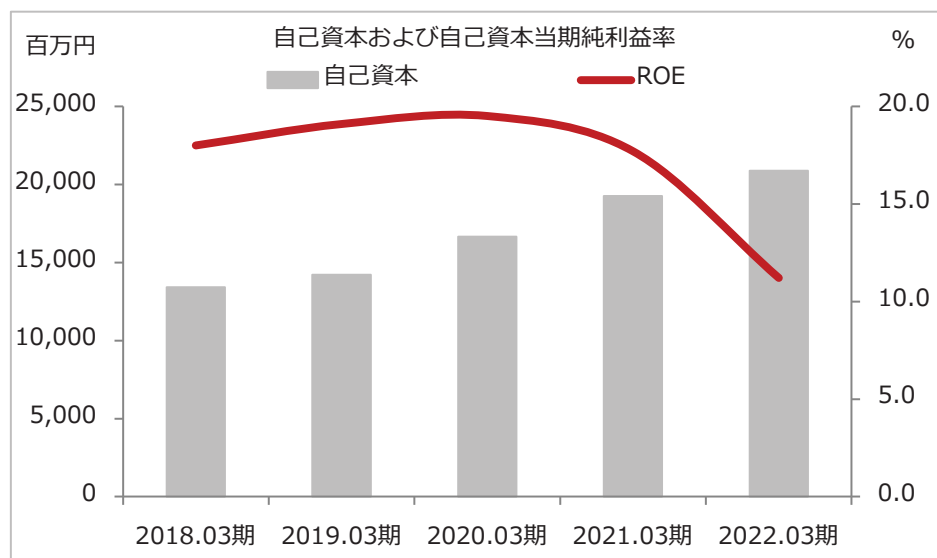
注：総資産回転率＝売上高／総資産（期首・期末平均）

総資産当期純利益率(ROA)＝親会社に帰属する当期純利益／総資産（期首・期末平均）

自己資本利益率(ROE)＝親会社に帰属する当期純利益／自己資本（期首・期末平均）

株主資本配当率(DOE)＝ROE×配当性向

※1嘱託社員(契約社員を含む)の人員数は、年間の平均人数を記載



財務分析

安定性1

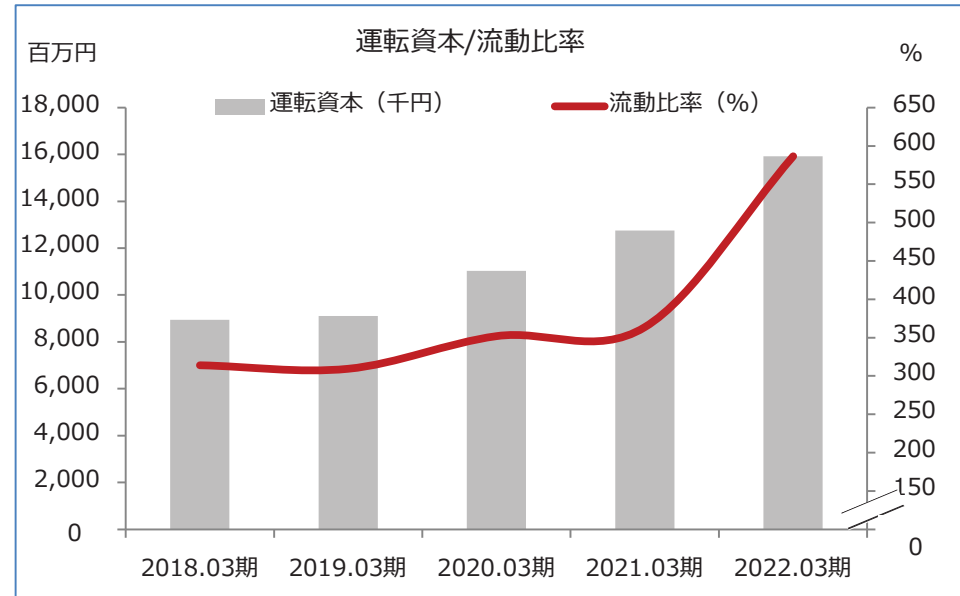
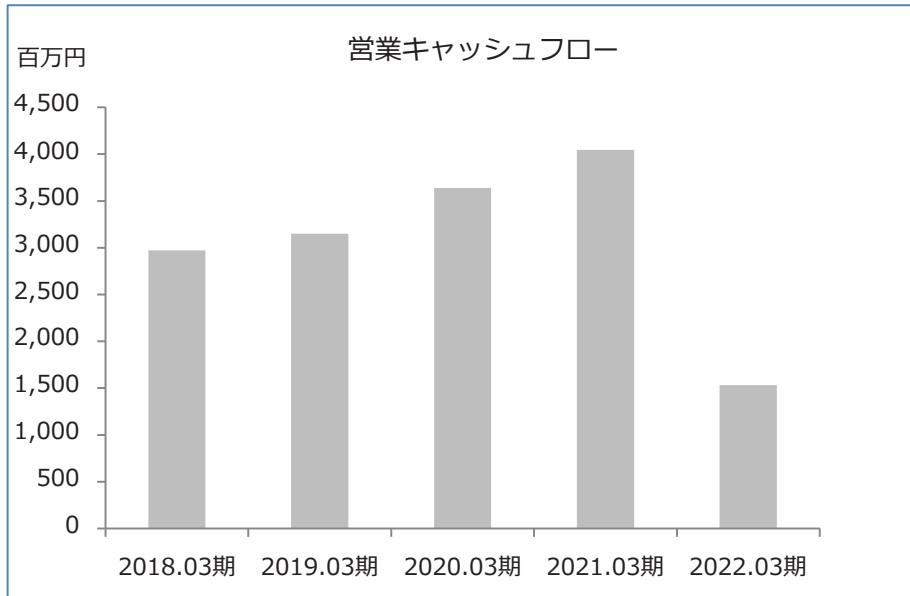
決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
流動比率 (%)	314.2	309.4	352.2	363.6	586.5
流動資産 (千円)	13,114,307	13,447,664	15,410,096	17,582,390	19,187,042
流動負債 (千円)	4,174,388	4,346,133	4,375,954	4,835,404	3,271,629
運転資本 (千円)	8,939,919	9,101,531	11,034,142	12,746,985	15,915,413
営業キャッシュフロー (千円)	2,972,109	3,150,371	3,637,633	4,047,337	1,533,649
減価償却費 (千円)	464,945	384,687	366,335	324,835	279,145
売上債権回転期間 (カ月)	1.7	1.7	1.6	1.6	1.7
売上債権 (千円)	3,971,197	3,954,156	3,797,975	3,699,150	3,834,272

注：流動比率＝流動資産（期末）／流動負債（期末）

運転資本＝流動資産（期末）－流動負債（期末）

減価償却費は有形固定資産及び無形固定資産、繰延資産に対する償却費合計

売上債権回転期間＝売上債権（期首・期末平均）／1カ月当たり売上高



財務分析

安定性2

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
自己資本比率 (%)	75.1	75.4	78.0	78.5	85.5
固定比率 (%)	35.0	37.4	35.2	35.4	24.9
固定長期適合率 (%)	34.8	37.2	35.0	35.3	24.8
固定資産 (千円)	4,762,178	5,399,291	5,947,384	6,954,410	5,253,114
固定負債 (千円)	101,240	72,377	72,304	69,772	68,568
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	3,441.3	2,854.8	2,994.5	7,088.3	1,382.6
受取利息・受取配当金 (千円)	18,784	27,753	31,338	41,872	38,376
支払利息 (千円)	1,207	1,427	888	570	982
有利子負債 (千円)	77,255	102,325	71,172	84,865	112,659
デッド・エクイティ・レシオ (倍)	0.6	0.7	0.4	0.4	0.5

注：自己資本比率 = 自己資本 (期末) / 総資産 (期末)

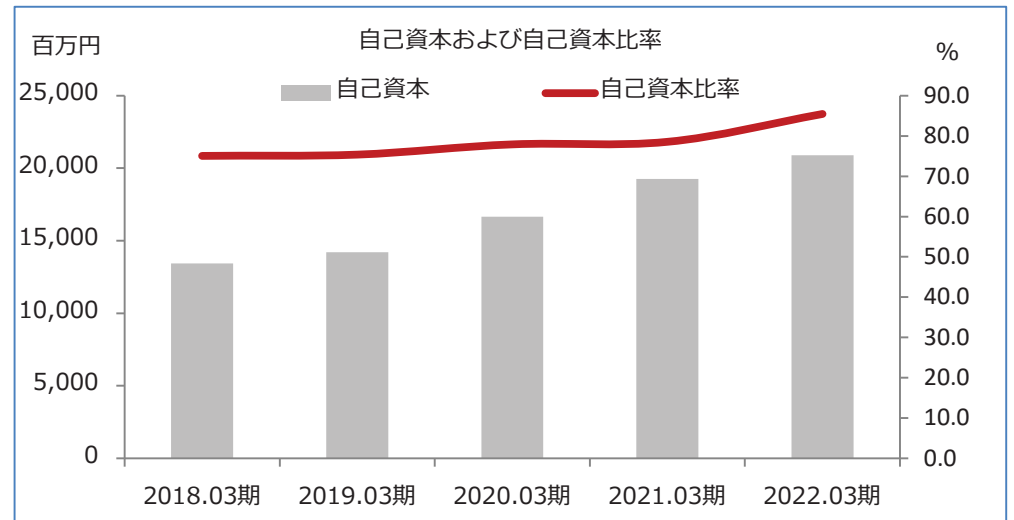
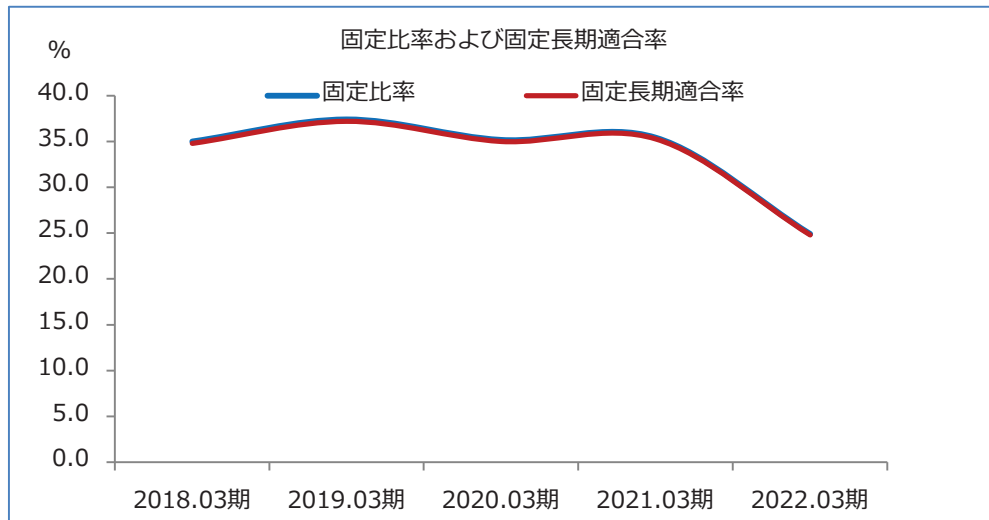
固定比率 = 固定資産 (期末) / 純資産 (期末)

固定長期適合率 = 固定資産 (期末) / {純資産 (期末) + 固定負債 (期末)}

インタレスト・カバレッジ・レシオ = キャッシュフロー / 利払い

有利子負債 = 短期借入金および1年以内返済予定の長期借入金 + 社債および長期借入金

デッド・エクイティ・レシオ = 有利子負債 (期末) / 純資産 (期末)



1株当たりデータ

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
1株当たり当期純利益 (円) ※1	254.13	304.55	358.18	378.94	267.40
1株当たり純資産 (円) ※1	1,524.72	1,690.92	1,980.27	2,290.28	2,482.07
1株当たり配当金 (円) ※2	55	65	72	76	80
配当性向 (%)	21.6	21.3	20.1	20.1	29.9
株価収益率 (倍)	11.79	11.51	5.45	10.11	8.97
期末発行済株式総数 (株) <自己株式を除く>	8,805,543	8,405,373	8,408,768	8,413,291	8,416,963

注：株価収益率に使用した株価は各決算期末日（3月31日の終値）の株価を使用しております。

※1 当社は、2017年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式を分割しましたが、2015年3月期の期首に当該分割が行われたと仮定し、1株あたりの純利益および純資産を算定しております。

※2 当社は、2017年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式を分割しましたが、2015年3月期から2017年3月期までの会計期間においては当該株式分割前の実際の配当の額を記載しております。

資本移動

1996年11月28日	有償一般募集	入札による募集350,000株、発行価格960円、資本繰入額480円、払込金総額473,480千円 入札によらない募集150,000株、発行価格1,240円、資本繰入額480円、払込金総額186,000千円
2000年5月19日	株式分割	1：1.2 これにより発行済株式数は4,896,000株になりました
2001年8月1日	1単位の株式数の変更	1単位の株式数を1,000株から200株へ変更いたしました
2002年1月4日	1単位の株式数の変更	1単位の株式数を200株から100株へ変更いたしました
2004年5月20日	株式分割	1：1.1 これにより発行済株式数は5,385,600株になりました
2017年4月1日	株式分割	1：2 これにより発行済株式数は10,771,200株になりました



連結貸借対照表

(単位：千円)

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
資産の部					
流動資産					
現金及び預金	8,690,632	9,152,203	11,388,410	13,296,108	14,416,705
受取手形及び売掛金	3,971,197	3,954,156	3,797,975	3,699,150	3,834,272
有価証券	-	100,000	-	305,990	600,542
リース投資資産	3,170	421	-	-	-
貯蔵品	46,039	67,810	27,816	46,235	39,696
その他	403,267	173,073	195,894	234,906	295,825
流動資産合計	13,114,307	13,447,664	15,410,096	17,582,390	19,187,042
固定資産					
建物及び構築物（純額）	525,760	503,585	480,194	448,489	408,234
工具、器具及び備品（純額）	333,960	272,805	180,100	215,975	112,622
土地	1,276,394	1,276,394	1,276,394	1,276,394	1,276,394
その他（純額）	456	186	386	6,193	4,098
有形固定資産合計	2,136,572	2,052,972	1,937,075	1,947,053	1,801,350
無形固定資産	584,056	739,971	879,975	811,767	301,620
投資有価証券	1,584,735	1,966,874	2,529,948	3,489,998	2,645,974
繰延税金資産	1,990	244,517	238,286	354,856	184,363
その他	454,823	394,954	362,097	350,735	319,805
投資その他の資産合計	2,041,550	2,606,346	3,130,332	4,195,590	3,150,143
固定資産合計	4,762,178	5,399,291	5,947,384	6,954,410	5,253,114
資産合計	17,876,486	18,846,955	21,357,481	24,536,800	24,440,157

連結貸借対照表

(単位：千円)

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
負債の部					
短期借入金	77,255	84,973	60,000	77,207	108,546
1年内返済予定の長期借入金	2,352	6,179	3,513	3,545	3,577
リース債務	2,748	421	-	-	-
未払金	2,200,460	2,363,303	2,170,125	2,227,293	1,980,558
未払法人税等	598,991	765,160	736,534	1,164,008	219,066
未払消費税等	463,273	312,317	634,126	632,821	228,898
賞与引当金	431,222	454,813	444,407	435,462	394,603
役員賞与引当金	20,641	6,647	9,249	5,440	7,870
その他	377,441	352,316	317,998	289,625	328,507
流動負債合計	4,174,388	4,346,133	4,375,954	4,835,404	3,271,629
長期借入金	17,351	11,172	7,658	4,112	534
リース債務	421	-	-	-	-
退職給付に係る負債	11,240	2,775	6,987	8,141	7,040
その他	72,226	58,429	57,659	57,518	60,993
固定負債合計	101,240	72,377	72,304	69,772	68,568
負債合計	4,275,628	4,418,511	4,448,259	4,905,177	3,340,198
資本金	475,000	475,000	475,000	475,000	475,000
資本剰余金	492,088	492,088	498,213	502,232	471,408
利益剰余金	14,826,518	16,956,370	19,421,423	22,003,505	23,614,380
自己株式	△ 2,463,941	△ 3,746,490	△ 3,740,906	△ 3,733,302	△ 3,727,600
株主資本合計	13,329,665	14,176,968	16,653,729	19,247,434	20,833,188
その他有価証券評価差額金	85,891	73,514	47,637	93,917	63,438
為替換算調整勘定	10,374	△ 37,699	△ 49,761	△ 72,552	△ 5,135
非支配株主持分	174,925	215,660	257,615	362,823	208,467
純資産合計	13,600,858	14,428,444	16,909,221	19,631,623	21,099,958
負債純資産合計	17,876,486	18,846,955	21,357,481	24,536,800	24,440,157

連結損益計算書

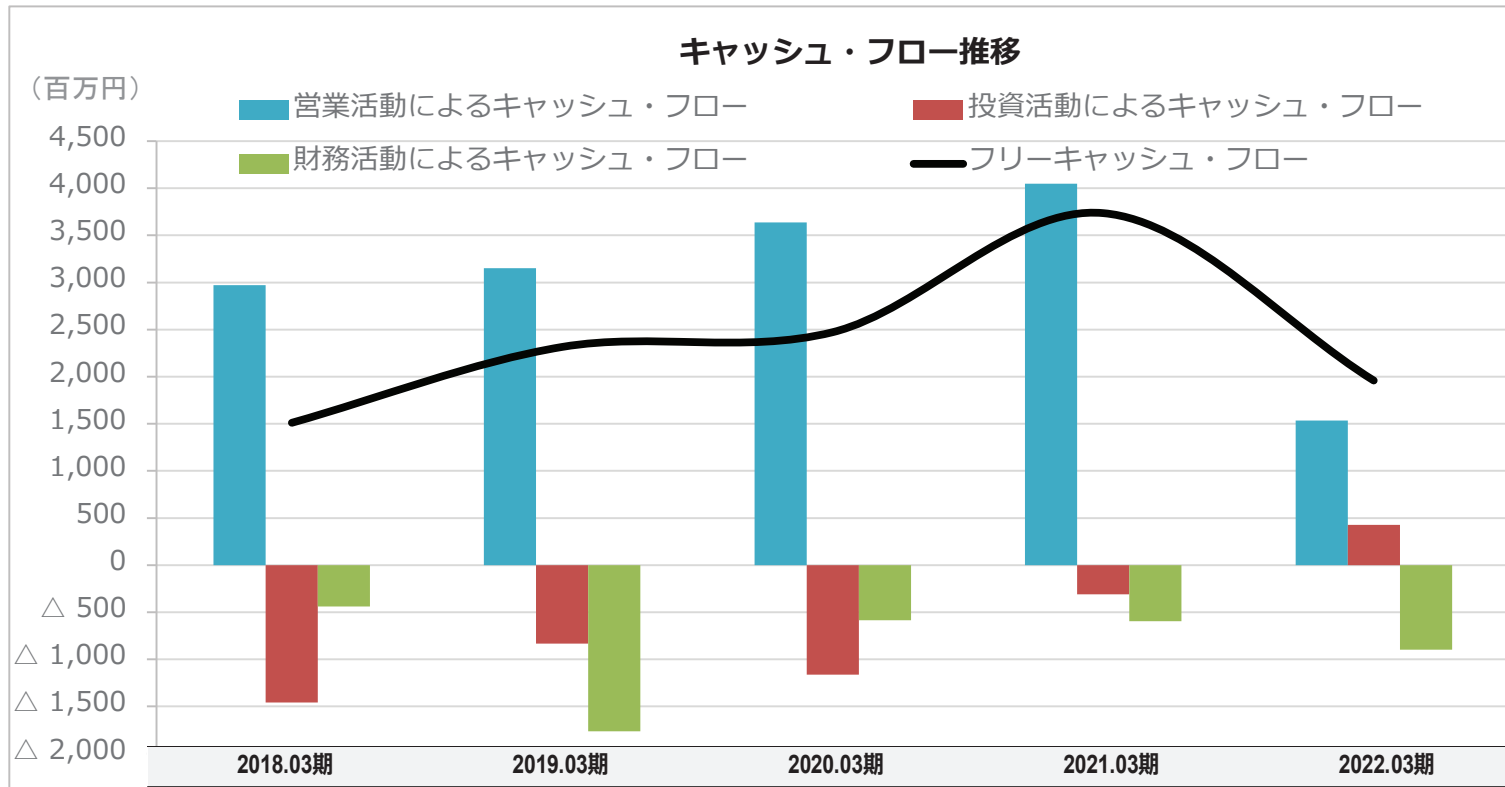
(単位：千円)

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
売上高	26,870,001	27,669,932	28,402,305	27,966,137	26,177,926
売上原価	19,394,807	19,268,088	19,614,668	18,766,899	17,658,139
売上総利益	7,475,193	8,401,843	8,787,637	9,199,238	8,519,786
売上総利益率	27.8%	30.4%	30.9%	32.9%	32.5%
販売費及び一般管理費	4,216,941	4,623,113	4,510,065	4,478,270	4,583,733
営業利益	3,258,251	3,778,729	4,277,571	4,720,967	3,936,052
営業利益率	12.1%	13.7%	15.1%	16.9%	15.0%
受取利息	12,190	20,209	23,280	33,547	32,738
受取配当金	6,594	7,543	8,058	8,324	5,638
その他	46,380	47,289	56,766	116,899	81,756
営業外収益	65,166	75,043	88,104	158,772	120,133
支払利息	1,207	1,427	888	570	982
その他	12,772	23,568	21,081	16,219	12,059
営業外費用	13,980	24,995	21,969	16,790	13,042
経常利益	3,309,438	3,828,776	4,343,706	4,862,950	4,043,144
経常利益率	12.3%	13.8%	15.3%	17.4%	15.4%
特別利益	1,577	5,299	25,660	-	-
特別損失	17,149	2,346	976	23,355	500,224
税金等調整前当期純利益	3,293,866	3,831,730	4,368,391	4,839,594	3,542,919
税金等調整前当期純利益率	12.3%	13.8%	15.4%	17.3%	13.5%
法人税、住民税及び事業税	1,016,440	1,211,414	1,295,348	1,686,233	1,013,603
法人税等調整額	△ 10,292	△ 59,784	11,387	△ 136,412	183,890
非支配株主に帰属する当期純利益	49,931	45,249	50,253	102,260	95,139
親会社株主に帰属する当期純利益	2,237,787	2,634,850	3,011,401	3,187,513	2,250,285
親会社株主に帰属する当期純利益率	8.3%	9.5%	10.6%	11.4%	8.6%

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

決算期	2018.03期	2019.03期	2020.03期	2021.03期	2022.03期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,972,109	3,150,371	3,637,633	4,047,337	1,533,649
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,459,448	△ 832,667	△ 1,163,029	△ 309,185	427,912
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 440,727	△ 1,762,808	△ 586,614	△ 594,664	△ 899,023
フリーキャッシュ・フロー	1,512,661	2,317,704	2,474,604	3,738,152	1,961,562
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,870	△ 30,551	△ 7,712	△ 6,564	△ 6,123
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,086,804	524,343	1,880,277	3,136,923	1,056,415
現金及び現金同等物の期首残高	6,278,282	7,365,086	7,912,520	9,850,526	12,987,449
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	23,090	-	-	-
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	-	57,727	-	-
現金及び現金同等物の期末残高	7,365,086	7,912,520	9,850,526	12,987,449	14,043,865



◆ 2022年3月期連結業績計画

(単位：百万円、%)

	2022年3月期実績			2023年3月期計画						コメント
			前期比	2023年3月期上期計画						
	構成比/売比			構成比/売比	前期比		構成比/売比	前期比		
売上高	26,177	100.0	△ 6.4	12,700	100.0	0.1	27,000	100.0	3.1	
国内棚卸サービス	16,317	62.3	△ 2.3	7,710	60.7	△ 2.5	16,230	60.1	△ 0.5	
リテイルサポートサービス	7,778	29.7	△ 18.0	3,990	31.4	3.0	8,270	30.6	6.3	
海外棚卸サービス	2,082	8.0	17.7	1,000	7.9	11.4	2,500	9.3	20.1	
売上原価	17,658	67.5	△ 5.9	8,717	68.6	2.3	18,454	68.3	4.5	
売上総利益	8,519	32.5	△ 7.4	3,983	31.4	△ 4.3	8,546	31.7	0.3	
販売費及び一般管理費	4,583	17.5	2.4	2,383	18.8	1.8	5,046	18.7	10.1	
営業利益	3,936	15.0	△ 16.6	1,600	12.6	△ 12.2	3,500	13.0	△ 11.1	
営業外収益	120	0.5	△ 24.3	53	0.4	△ 15.1	97	0.4	△ 19.3	
営業外費用	13	0.0	△ 22.3	8	0.1	19.5	16	0.1	22.7	
経常利益	4,043	15.4	△ 16.9	1,645	13.0	△ 12.4	3,581	13.3	△ 11.4	
当期純利益	2,250	8.6	△ 29.4	1,066	8.4	△ 7.8	2,370	8.8	5.3	

会社概要（2022年3月31日現在）

商号	株式会社エイジス	本社所在地	〒262-0032 千葉県花見川区幕張町4丁目544番4 TEL043(350)0888 FAX043(350)0800						
設立	1978年5月	決算期	3月						
資本金	475,000,000円	発行済株式数	10,771,200株						
事業内容	流通業周辺サービス ・ 実地棚卸(商品/資産等) ・ リテイルサポートサービス (集中補充/改装/リサーチ等) ・ 広告企画/制作	事業所計 83拠点							
役員		<直営> 43拠点				<FC> 40拠点			
代表取締役社長 齋藤 昭生		青森市	さいたま市大宮区	厚木市	大阪市淀川区	札幌市中央区	高松市	広島市中区	北九州市小倉南区
常務取締役 高橋 一人		秋田市	鶴ヶ島市	静岡市葵区	堺市堺区	札幌市北区	徳島市	広島市安佐南区	熊本市中央区
常務取締役 山根 洋行		盛岡市	千葉県花見川区	沼津市	和歌山市	札幌市白石南郷	徳島県板野郡	福山市	八代市
常務取締役 福田 久也		仙台市宮城野区	千葉市中央区	浜松市中区	奈良市	苫小牧市	松山市	山口市	宮崎市
取締役 森 和弘 (社外取締役)		山形市	市原市	名古屋市中村区	東大阪市	函館市	宇和島市	下関市	都城市
取締役 鈴木 政士 (社外取締役)		郡山市	柏市	四日市市	京都市下京区	旭川市	高知市	大分市	鹿児島市
常勤監査役 増子 泰由 (社外監査役)		宇都宮市	東京都新宿区	岐阜市	神戸市中央区	北見市	新居浜市	福岡市博多区	那覇市
常勤監査役 西岡 博之		小山市	東京都墨田区	金沢市	岡山市北区	帯広市	丸亀市	福岡市東区	沖縄市
監査役 野間 自子 (社外監査役)		新潟市中央区	武蔵野市	福井市	姫路市	釧路市	今治市	福岡市南区	
		水戸市	八王子市		松江市			大野城市	
		高崎市	横浜市中区					久留米市	
		長野市						長崎市	
		松本市						佐世保市	
								佐賀市	

子会社(*は連結子会社)

(国内子会社)

エイジスマーチャンダイジングサービス株式会社 (*)	(千葉県花見川区)	マーチャンダイジングサービス)
エイジスリサーチ・アンド・コンサルティング株式会社 (*)	(千葉県花見川区)	カスタマーサービス・チェック)
株式会社ロウブ (*)	(東京都新宿区)	広告企画制作)
エイジスコアポレートサービス株式会社	(千葉県花見川区)	事務代行業務、障害者特例子会社)
エイジスリテイルサポート研究所株式会社	(千葉県花見川区)	サービスの研究開発及びコンサルテーション)

(海外子会社)

エイジスビジネスサポート株式会社 (*)	(大韓民国ソウル特別市)	実地棚卸サービス事業)
大連愛捷是科技有限公司	(中華人民共和国遼寧省大連市)	システム開発および棚卸機器の開発・製造)
艾捷是(上海)商務服務有限公司 (*)	(中華人民共和国上海市)	実地棚卸サービス事業)
AJIS (MALAYSIA) SDN. BHD. (*)	(マレーシア・セランゴール州)	実地棚卸サービス事業)
愛捷是(広州)商務服務有限公司 (*)	(中華人民共和国広州市)	実地棚卸サービス事業)
愛捷是(北京)商務服務有限公司 (*)	(中華人民共和国北京市)	実地棚卸サービス事業)
AJIS (THAILAND) CO., LTD. (*)	(タイ・バンコク都)	実地棚卸サービス事業)
AJIS (HONG KONG) CO., LTD. (*)	(中華人民共和国香港特別行政区)	実地棚卸サービス事業)
AJIS (VIETNAM) CO., LTD. (*)	(ベトナム・ホーチミン市)	実地棚卸サービス事業)

(関連会社)

台湾愛捷是股份有限公司	(中華民国台北市)	実地棚卸サービス事業)
AJIS PHILIPPINES, INC.	(フィリピン・マニラ市)	実地棚卸サービス事業)